

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代中国語「人家」の代名詞的用法についての一考察
Author(s)	犬塚, 優司
Citation	ニダバ , 28 : 28 - 37
Issue Date	1999-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048043">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048043</a>
Right	
Relation	



# 現代中国語「人家」の 代名詞的用法についての一考察<sup>1)</sup>

犬 塚 優 司

## 1. 序論

本稿の目的は、「人家 (rénjia)」について、それが特定の人物を指す用法の特性を明らかにすることである。

考察を進めていくために、中国人のインフォーマントにお願いし、各例文の文法的適格性や意味上の差異について聞き取り調査を行った。今回、島根県立国際短期大学客員研究員で吉林大学東北アジア研究院講師の王化波先生にインフォーマントをお願いした。なお、王化波先生は、1963年生まれで、吉林省吉林市近郊出身である。

本稿の対象である特定の人物を指す「人家」の用法とは、次の例文(1 a)に見られるような用法である。

- (1) a. 我回山东, 在他人眼里, 总是有些荣归故里的意思, 那里的人们也总是比别的地方更欢迎你, 于是电视、报纸都会采访你, 大街小巷好事的人又开始议论你, 先生一家的平静日子又得让我搅乱了。我不能帮助人家还去给人家添乱, 真不忍心, 算了, 就这样, 我一直咬牙坚持着。(《日子》p. 30)

Wǒ huí Shāndōng, zài tā rén yǎn li, zǒng shì yǒu xiē  
私 帰る 山東 ~で 他人 目の中 やはり ~である 少し  
róngguī gùlǐ de yìsi, nàlǐ de rénmen yě zǒng  
錦と飾る 故郷 ~の 意味 そこ ~の 人々 ~もまた やはり  
shì bǐ bié de dìfāng gèng huānyíng nǐ, yúshì diànshì,  
~である ~より 別の 場所 更に 歓迎する あなた<sup>2)</sup> そして テレビ  
bào zhī dōu huì cǎifǎng nǐ, dàjiē xiǎoxiàng hào shì de  
新聞 みな ~だろう 取材する あなた 大通り 路地 物好き ~の  
rén yòu kāishǐ yìlùn nǐ, xiānsheng yì-jia de píngjìng  
人 また 始める ~を話題にする あなた 主人 一家 ~の 静かな  
rìzì yòu deì ràng wǒ jiǎoluànle. Wǒ bùnéng  
日々 また きっと~する ~される 私 乱す—LE 私 ~できない  
bāngzhù rénjia hái qù gěi rénjia tiānlùn,

助ける RENJIA 更に すすんで～する ～に RENJIA 面倒をかける  
 zhēn bù rěnxīn, suàn-le, jiù zhèyang, wǒ  
 本当に ～ない 忍ぶ それまでだ ～すると このように 私  
 yìzhí yǎo-yá jiānchízhe.  
 ずっと (苦痛に) 歯を食いしばる がんばる— ZHE

私が山東に帰ると、他の人の目には、やはり少しは故郷に錦を飾る意味があるように見え、そこの人々もまた別の場所よりもあなたを歓迎してくれ、そしてテレビや新聞はみなあなたを取材するだろうし、大通りや路地の物好きな人はまたあなたのことを話題にし始め、主人一家の静かな日々は、きっとまた私によって乱されるだろう。私はあの人たちを助けることができないし、さらにあの人たちに面倒をかけてしまう。本当に忍びない。それまでだ。このように、私はずっと歯を食いしばってがんばっていこう。<sup>3)</sup>

(1 a) の「人家」が、ここにおいて、「先生一家(主人一家)」を指していることは、文脈から明白です。一般に文脈上既に現れている人物を指す場合は、人称代名詞を用いることができるかとされている。「先生一家」は、複数であるので、「人家」を人称代名詞「他们(tāmen)」で置き換えて、その文だけ示すと、(1 b) のようになる。

(1) b. 我不能帮助他们还去给他们添乱, 真不忍心, 算了, 就这样, 我一直咬牙坚持着。

私は彼らを助けることができないし、さらに彼らに面倒をかけてしまう。本当に忍びない。それまでだ。このように、私はずっと歯を食いしばってがんばっていこう。

(1 a) と (1 b) の文をインフォーマントに示したところ、(1 b) は、文としては正しいが、不自然であり、(1 a) の文に見られる細やかな情感が、(1 b) では見られない。という指摘を受けた。

インフォーマントの言う「人家」に見られる「細やかな情感」の正体は何なのか。「人家」のいかなる性質が、この「細やかな情感」を生み出しているのか。本稿において、考察していく。

## 2. 本論

従来の研究において、「人家」は、次のような用法があるとされている。長くなるが、ここで、吕叔湘主编(1980)を例にとって示す。

人家 rén · jia

<代> 1. 泛指说话人和听话人以外的人, 和“自己”相对, 大致相当于“别人”。(話し手と聞き手以外の人を指し、‘自己’と対をなす。ほぼ‘别人’に相当する。)

玉梅这姑娘最热心, 人家的事就是她自己的事。(この玉梅という娘は誰よりも思いやりがあって、人のことでも自分のことと同じように考えている)

话是说给人家听的。文章是写给人家看的。(話は人に聞かせるものであり、文章は人に読ませるために書くものだ)

这两张图。一张是我们自己设计的。一张是人家设计的。(この2枚の図面の内、1枚はぼくたち自身が引いたもので、もう1枚は別の人が引いたものだ)

2. 称说话人和听话人以外的人。所说的人已见于上文。大致等于“他”“他们”。(話し手と聞き手以外の人で、すでに前に現れた人を指す。ほぼ‘他’あるいは‘他们’に相当する。)

小高正在写工作小结呢。人家(指小高)哪儿有时间陪你出去。(高さんは今、中間総括を書いているところだ、彼——高さん——に君のおともをするひまなんてあるものか)

我问过好几个大夫。人家(指大夫)都说这个病不要紧。(私は何人もの医者に聞いたが、みんな——医者——この病気は大したことはないと言った)

这几个片子拍得真是不错。咱们应该好好向人家(指制片厂)学习。(これらの映画は実によく撮れている。われわれは彼ら——映画製作所——を見習わなくてはならない)

他这样关心我。我要不努力。这么对得起人家(指他)呢。(彼はこんなに私に気を配ってくれるのだから、こちらが努力しなかったら、先方——彼——に申しわけが立たないよ)

在名词性成分前加“人家”，语气较生动。(名詞的要素の前に‘人家’を付けると、いきいきとした表現になる。)

人家姑娘说话办事总站在理上。(あの娘は言うこともやることもなかなか筋が通っている)

人家五车间不单生产好。文化体育活动也搞得热火朝天。(第5作業場の人たちは生産ばかりでなく、文化・スポーツ活動にも非常に熱心だ)

3. 称说话人自己。等于“我”。稍有不满意的情绪。(話し手自身を指す。‘我’に相当する。やや不満の気持が含まれる。)

你跑慢点儿行不行。人家跟不上啊！(もう少しゆっくり走ってくれんかね、人が付いて行けないじゃないか)

你让我给你借小说。人家借来了。你又不看。(君が小説を借りてきてくれって言うんで、人が借りてきてやったのに、君ったら読もしないんだから)

注意：口语中“人家”可省说成“人”。但句末的“人家”不能。(注意：話し言葉では‘人家’を‘人’と省略できる。ただし文末に‘人家’があるときは不可。)

秀英的入学通知来了。快给人【家】送去。(秀英の入学通知が来た、早く届けてあげなさい)

经过评比。人【家】刘光华的算法最好。(判定・比較の結果、劉光華の計算法がいちばんよかった)

×用了好多天了。快还人！(何日も使っていて、早く返しなさい)<sup>4)</sup>

吕叔湘主编(1980)には、2.に、「称说话人和听话人以外の人。所说的人已见于上文。大致等于“他”“他们”。(話し手と聞き手以外の人で、すでに前に現れた人を指す。ほぼ‘他’あるいは‘他们’に相当する。)」と述べられている。本稿で対象としているのは、この用法である。なお、吕叔湘主编(1980)の注意の中に、「口语中“人家”可省说成“人”，但句末的“人家”不能。(話し言葉では‘人家’を‘人’と省略できる。ただし文

末に‘人家’があるときは不可。）」とあるが、本稿においては、“人”については、考察の対象としないこととする。

この用法について、「他」等と同じと言うことについては、王力（1944,85,p.205）も「“人家”也可以从无定代词变为确有所指的代词。本该用“我”或“他”的地方，若用“人家”，就更显得俏皮。（“人家”は無定代名詞から確かに指すものを持っている代名詞になることもできる。もともと「我」あるいは「他」を用いるところで、もし「人家」を用いると、いっそうおもしろおかしく見える。）<sup>6)</sup>」と指摘している。

さて、「他」と代わることができる「人家」の用法について、王力（1944,85,p.205）は、上述の通り「俏皮（おもしろおかしい）」というニュアンスが表れるという指摘している。その外に、興水優（1980,p.32）は、「“人家”はそこで指ししめしている人とのあいだに、なんらかの距離をおいた表現（たとえば、人を称賛する場合）になることがあ」と、林祥媚（1984, p. 42）は、「这种说法显得委婉些，或者俏皮些。（この種の言い方は、少し婉曲な気持ちや少しおもしろおかしい気持ちを表している。）」と、北京语言学院（1986, p. 279）は、「带有尊重的感情色彩。（尊重のニュアンスを帯びている。）」、「有时也带有不满意或疏远的感情色彩。（不満や疎遠のニュアンスを帯びるときもある。）」と指摘している。すなわち、「人家」が何らかのニュアンスを伴うことを指摘している。（1 a）は、「先生一家」に対する「尊重」のニュアンスを帯びているように思われる。

特定の人物を指していると思われる「人家」の他の用例を見てみよう。

(2) 我在想：跟人家比什么，有本事上台比去！（《日子》p.162）

Wǒ zài xiǎng: gēn rénjiā bǐ shénme yǒu běnshì  
私 ~している 考える ~と RENJIA 競う 何 ある 能力  
shàngtái bǐ qù !  
舞台上上がる 競う 行く

私は思っている。あの人と何を競うというのだ。力があるなら、舞台上がって競っていけ。

(3) 皮球跟服务员说她是我家小阿姨，人家自然怀疑。（《日子》p.387）

Píqiú gēn fúwùyuán shuō tā shì wǒ jiā xià  
皮球（人名） ~に 店員 話す 彼女 ~である 私 家 一番下の  
āyí, rénjiā zìrán huáiyí.  
おばさん RENJIA 当然 疑う

皮球が店員に彼女は私の家の一番下のおばさんだと言うと、その人は当然疑った。これらを「他」等と置き換えてみるとどうなるか。

(2) については、この「人家」は、文脈から見て、特定の人を指しているとも考えられるし、任意の人とも考えられるところであるが、「人家」を「她」に置き換えると、「不

満」のニュアンスが失われるようだ。

(3) について、この「人家」は、「服务员」を表しているが、インフォーマントは、これは「他」または「她」に置き換えることはできないと指摘した。もし、置き換えると、「她是我家小阿姨」の「她」と混乱するおそれがあるからであるとのことであった。「他」ならば性別の助けを得て可能かもしれないが、話し言葉では、同音のため当然不可能である。書き言葉としても、恐らく避けるであろうとのことであった。

それでは、一般の会話文の中で、「他」等が用いられた文において、それを「人家」に置き換えると、どうなるのだろうか。

(4) a. 我在学校门口看见一位老人, 你知道他是谁吗?

Wǒ zài xuéxiào ménkǒu kànjian yí-wèi lǎorén, nǐ zhīdao  
私 ~で 学校 入り口 見かける 一人 老人 あなた 知っている  
tā shì shéi ma?  
彼 ~である 誰 ~か

私は学校の入り口で一人の老人を見かけたが、君は彼が誰だか知っているかい。

b. \*我在学校门口看见一位老人, 你知道人家是谁吗?

\*Wǒ zài xuéxiào ménkǒu kànjian yí-wèi lǎorén, nǐ zhīdao  
私 ~で 学校 入り口 見かける 一人 老人 あなた 知っている  
rénjia shì shéi ma?  
RENJIA ~である 誰 ~か

(4 a) は、学校の入り口で見かけた老人のことを聞き手に尋ねる場面で用いられる。

(4 a) の文中の「他」を「人家」に換えることはできないようだ。

(5) a. 我在学校门口看见李老师, 你快点儿告诉他回办公室。

Wǒ zài xuéxiào ménkǒu kànjian Lǐ lǎoshī, nǐ kuài diǎnr gàosu  
私 ~で 学校 入り口 見かける 李 先生 あなた 早く 少し 告げる  
tā huí bàngōngshì.  
彼 帰る 事務室

私は学校の入り口で李先生を見かけたから、君は彼に事務室に帰るようにちょっと急いで知らせなさい。

b. ??我在学校门口看见李老师, 你快点儿告诉人家回办公室。

??Wǒ zài xuéxiào ménkǒu kànjian Lǐ lǎoshī, nǐ kuài diǎnr  
私 ~で 学校 入り口 見かける 李 先生 あなた 早く 少し  
gàosu rénjia huí bàngōngshì.  
告げる RENJIA 帰る 事務室

(5 a) は、李先生にお客さんが来たが、事務室の職員である聞き手は、彼がどこにいるか分からない。やはり事務室の職員である話し手が事務室に入ってきて、その話を聞き、

李先生が学校の入り口のところにいるのを見かけたことを、聞き手に伝えるような場面で用いられる。このような場合、インフォーマントによれば、(5 b)のように「他」を「人家」に換えることは一般にかなり不自然であるが、話し手が聞き手の上司である場合、聞き手に対する命令的な口調を和らげるために、(5 b) が用いられることもあるという。

一方、(6 a) の場合、「他」を「人家」に換えた (6 b) は、自然な文であるとのことである。

(6) a. 听说今天来了一位客人, 他希望跟你见面。

Tīngshuō                    jīntiān lái le yí-wèi kèren, tā xīwàng  
聞くとところによると 今日 来る- LE 一人 客 彼 希望する  
gēn nǐ jiànmiàn.  
～に あなた 面会する

聞くとところによると、今日お客さんが一人来て、彼はあなたに会うことを希望していたそうだね。

b. 听说今天来了一位客人, 人家希望跟你见面。

Tīngshuō                    jīntiān lái le yí-wèi kèren, rénjiā xīwàng  
聞くとところによると 今日 来る- LE 一人 客 RENJIA 希望する  
gēn nǐ jiànmiàn.  
～に あなた 面会する

聞くとところによると、今日お客さんが一人来て、その人はあなたに会うことを希望していたそうだね。

ところが、語順は異なるが、「人家」が表す人を「客人」から「你父母 (あなたの父母)」にした (7 b) は、かなり不自然であり、敢えて (7 b) のように言うと、話し手は、聞き手とその父母との関係が陰悪なもので、長い間会っていない状況を想定しているような場合に限られると、インフォーマントは指摘している。

(7) a. 听说今天你父母来了, 他们希望跟你见面。

Tīngshuō                    jīntiān nǐ fùmǔ lái le, tāmen xīwàng  
聞くとところによると 今日 あなた 父母 来る- LE 彼ら 希望する  
gēn nǐ jiànmiàn.  
～に あなた 面会する

聞くとところによると、今日あなたのご両親が一人来て、彼らはあなたに会うことを希望していたそうだね。

b. ??听说今天你父母来了, 人家希望跟你见面。

??Tīngshuō                    jīntiān nǐ fùmǔ lái le, rénjiā xīwàng  
聞くとところによると 今日 あなた 父母 来る- LE RENJIA 希望する  
gēn nǐ jiànmiàn.

～に あなた 面会する

(4) - (7) までの例文の現れる状況における、「話し手」、「聞き手」、「人家で表されている人」との関係について、考えてみると、次のようなことが言える。

(4) の状況において、「話し手」は、「人家で表されている人」が誰であるか聞いているのだから、その正体は知らないことは明らかである。一方、「話し手」は、「聞き手」が「人家で表されている人」が誰であるか知っていると予想している。したがって、「話し手」と「人家で表されている人」との関係は、「聞き手」とその人との関係よりも遠いものであると、「話し手」は考えていることになる。

(5) の状況においてはどうか。(5 b) が不自然になる状況において、「話し手」と「人家で表されている人」すなわち「李先生」との関係は、「聞き手」と「李先生」の関係と同じであると考えられる。一方、(5 b) が可能と考えられる状況では、「話し手」と「李先生」との関係は「聞き手」と「李先生」の関係と同じではないようだ。

(6) の状況において、「話し手」は「人家で表されている人」すなわち「客人」が誰なのかははっきり知らないようであるし、「聞き手」と「客人」との関係も知らないようである。しかし、「話し手」は、「客人」が来ていて「聞き手」に会いたがっていることを知っており、一方「聞き手」はそのことを知らないと、考えている。したがって、「客人」が来ていることを「話し手」が知っている文だけ、「話し手」と「客人」との関係は「聞き手」と「客人」との関係よりも近いものであると、「話し手」が考えていることになる。

(7) の状況は、一般的に「話し手」と「人家で表されている人」すなわち「你父母」と関係は「聞き手」と「你父母」との関係よりも遠いことは明らかであり、「話し手」もそのように考えていると思われる。したがって、(7 b) が可能なのは、非常に特殊な状況に限られるのである。

以上の考察から、「話し手」と「他」等で表されている人との関係が、「聞き手」とその人との関係よりも遠いものであると、「話し手」が考えている場合、「他」等を「人家」に置き換えることはできないようである。とすると、次のような仮説を設定できる。

(8) 特定の人を示すときに、「他」ではなく、「人家」と用いるということは、「話し手」が、「話し手」とその人との関係を「聞き手」とその人との関係よりも近いものであることを示している。<sup>7)</sup>

(1 a) の例文に帯びている「細やかな情感」は、作者が「人家」を用いることで、作者と「人家」で表されている人との関係の近しさを示すことに由来していると考えられる。

他の例文で、この仮説を検証してみよう。

(9) a. 他是谁?

Tā shì shéi ?

彼 ～である 誰



彼は誰ですか。

b. \*人家是谁？

\*Rénjia shì shéi ?

RENJIA ～である 誰

(9 a) は、ある人を指して、その人が誰かと尋ねる場合の例文である。このような場合、「話し手」は「他」で示される人が誰なのか知らず、「話し手」は「聞き手」がそれを知っていると考えているから、尋ねているのである。したがって、(8) の仮説に当てはまり、(9 b) のように「他」を「人家」にすることができないのである。

(10) a. 那位是我们老师, 他教汉语。

Nà-wèi shì wǒmen lǎoshī, tā jiāo Hànyǔ.

あの方 ～である 私たち 先生 彼 教える 中国語

あの方は私たちの先生で、彼は中国語を教えています。

b. 那位是我们老师, 人家教汉语。

Nà-wèi shì wǒmen lǎoshī, rénjia jiāo Hànyǔ.

あの方 ～である 私たち 先生 RENJIA 教える 中国語

あの方は私たちの先生で、あの方は中国語を教えています。

(10 b) は、(10 a) と同様に自然である。これは、「我们老师」を紹介している場面であり、「話し手」と「我们老师」の関係は、当然「聞き手」と「我们老师」との関係よりも近いものであるからである。

では、どうして(8)のような関係を示すことによって、「尊重」、「婉曲」、「不満」、「疎遠」、「おもしろおかしい」などのニュアンスが生じるのであろうか。

ある文のニュアンスとは誰に生じるのか。それは当然聞き手にである。話し手はその効果を期待していうにしても、そのニュアンスは聞き手に生じなければ意味がないのである。

(8) のような関係を聞き手の側から見ると、「人家」で表されている特定の人が、話し手によって意図的に遠ざけられたことになる。そこには、当然「疎遠」、「婉曲」のニュアンスが生じると考えられる。また、直接的な表現を避け、ある人を自分から離れた表現で表すことにより、「丁寧さ」や「尊敬の気持ち」を表すことはよくあることである。<sup>8)</sup>

「不満」のニュアンスはどこなら生じうるのか。

(11) a. 我问李老师, 但是他不回答。

Wǒ wèn Lǐ lǎoshī, dànshì tā bù huídá.

私 問う 李 先生 しかし 彼 ～ない 答える

私は李先生に尋ねたが、彼は答えなかった。

b. 我问李老师, 但是人家不回答。

Wǒ wèn Lǐ lǎoshī, dànshì rénjia bù huídá.

私 問う 李 先生 しかし RENJIA ~ない 答える

私は李先生に尋ねたが、その人は答えなかった。

インフォーマントによれば、(11a)は、不満な気持ちがあろうとなかろうと用いることができるが、「他」を「人家」に置き換えた(11b)は、「不満」のニュアンスがないと用いられないとのことである。

これについて、考えられるのは、基本的に「人家」によって表すことで、ある特定の人に対する「親しさ」を表しているが、文脈上「話し手」にとって不本意な状況においてこの語を用いると、「親しい」はずの人が不本意な状況に関与していくことになる。そこから、「聞き手」に対して、「不満」のニュアンスを感じさせることになる。一方、「他」のような「親しさ」という観点から見て中立的な語を用いた場合、「親しいはず」という感じを与えることがないため、「人家」を用いたときに生じる「不満」のニュアンスが感じられないのである。したがって、この「不満」のニュアンスも、「話し手」に近づけるといことから生じるものであると、筆者は考える。

王力(1944, 85)や林祥媚(1984)が指摘する「おもしろおかしさ」のニュアンスについては、対象とする「人家」の用法に用例を見いだすことができなかつたため、考察を進めることができなかつた。今後の課題として、残しておくことにする。

### 3. 結論

これまでの考察から、特定の人物を示す「人家」を用いた話し手の意図として、次のように言うことができると考える。

(12) 特定の人を示すときに「他」ではなく、「人家」と用いるということは、話し手が、1) その人が聞き手よりも話し手自身により近い人であると感じていること、あるいは、2) その人を聞き手から遠い人と感じていること、を示している。

会話の中で話し手は、話し手と聞き手以外の第三者が現れると、その人を何らかの呼称を用いて表現しなければならない。その時、いかなる呼称を用いるかということは、話し手が、その人を心理的にどのように位置づけているかということを反映していると考えられる。その位置づけは、話し手と聞き手を基準とした心理的な空間的枠組みの中で、話し手とその人との親疎関係、及び、聞き手とその人との親疎関係によってなされる。その際、「他」「她」「他们」「她们」という人称代名詞によって表される人は、特定のニュアンスを帯びていないと言う意味において、無標的(中立的)に位置づけられる。一方、「人家」によって表される人は、聞き手から遠い位置(話し手に近づくこともある<sup>9)</sup>)に位置づけられるのである。

### 註

1) 本稿は、1998年5月30日島根大学法文学部で行われた第44回中国四国地区日本中国学会大会において、

「代名詞「人家」の用法上の特性について——特定の人物を指す「人家」の特性を探る——」という題名で発表したものに、加筆訂正したものである。その際、ご助言、ご指導いただいた先生方に、この場を借りて感謝の意を表す。

2) この「你」は、筆者自身を表しており、一文中に筆者を表す「我」と「你」が共存している。これ自体興味深い問題を含んでいるが、ここでは考察しないことにする。

3) 用例は、第一段に漢字表記を、第二段にピンインによる音声表記とその逐語訳、第三段に日本語訳を示した。なお、第二段、第三段については、その両方あるいはいずれかを省略したものもある。また、文学作品からの引用は、第一段の最後に、作品名を（ ）内に示した。（ ）が付けられていないものは、筆者による作例である。第二段は、ピンインと逐語訳を上下に対応させた。ピンインは、文法上の特性を示すために、一部一般的な表記法とは異なる方法が使われている。逐語訳中、いくつかの文法的な要素は記号で示した。「LE」は、完了のアスペクトを表す接辞を、「RENJIA」は、本稿で対象となっている「人家」を、「ZHE」は、持続のアスペクトを表す接辞を示している。

4) 呂叔湘主編（1980, pp. 406-7）より。なお、日本語訳は、呂叔湘主編／牛島徳次監訳（1992, pp. 293-4）よった。

5) 翻訳は筆者による。以下の引用についても、同様である。

6) 王国璋、安汝磐等編著（1980, p. 276）にも同様の指摘がある。

7) 第4回中国四国地区日本中国学会大会における発表の際、岡山大学文学部客員教授で北京大学対外漢語教学中心の張起旺教授より、「人家」を「你」との「対比」として捉えることができるというご助言をいただいた。「対比」という概念は、非常にすっきりした魅力的な概念であるが、結論で述べるような心理的な位置づけを考えていくために、本稿においては「対比」という概念を用いないことにした。

8) 神尾昭雄（1990, p. 231-8）参照。

9) 話し手に究極的に近づくと、「人家」は話し手自身を示すことになる。これは、呂叔湘主編（1980, pp. 406-7）が「人家」の用法の3. で示したものになるだろうが、これについては、更なる検討が必要であろう。

## 参考文献

- 北京语言学院（1986）：《現代漢語常用詞語例解》下冊（北京語言學院）  
神尾昭雄（1990）：『情報のなわ張り理論』（大修館書店）  
久野暁（1978）：『談話の文法』（大修館書店）  
林祥媚（1984）：《代詞》（漢語知識講話）（上海教育出版社）  
呂叔湘主編（1980）：《現代漢語八百詞》（商務印書館）  
呂叔湘主編／牛島徳次監訳（1992）：『中国語用例辞典』（東方書店）  
興水優（1980）：『中国語基本語ノート』（大修館書店）  
鈴木孝夫（1996）：『教養としての言語学』（岩波新書）（岩波書店）  
王国璋、安汝磐等編著（1980）：《常用詞用法例釋》（中國人民大學出版社）  
王力（1944, 85）：《中國現代語法》（漢語語法叢書）（商務印書館）

## 使用テキスト

- 倪萍（1997）：《日子》（作家出版社）